

特集5

岡山県 笠岡市
北木小学校

島でいつまでも元気に暮らし続けるために

特定非営利活動法人 かさおか島づくり海社 事務局長 石井 洋平

岡山県笠岡市北木島

私たちの特定非営利活動法人「かさおか島づくり海社」は、岡山県笠岡市の瀬戸内海の沖合に約30の島々（有人島は7島）が連なる笠岡諸島を活動エリアにしています。一番大きく人口が多い島は北木島といい、笠岡港からフェリーで約1時間の距離にあります。北木島は、花崗岩の産地として石材業が栄えましたが、過疎・高齢化により昭和35年には5千人以上あった人口も今では千人を切り、高齢化率も70%を超えています。



■笠岡市

かさおか島づくり海社

過疎・高齢化に対して、それぞれの島で有志が島の振興に取り組んでいました

が、小さな島単位での活動には限界がありました。そこで、笠岡諸島全体で活性化を図ろうと、平成9年に各島の有志が「島をゲンキにする会」を結成し笠岡諸島全体の大運動会を開催しました。その後「島をゲンキにする会」は「電脳笠岡ふるさ島づくり海社」となり、更に法人格を有する「かさおか島づくり海社」（以下「海社」といいます。）に発展し、島民の課題解決のため様々な事業を行う現在の姿になっています。海社の原点はこの大運動会の取組であり、そこを出発点としています。



今も続く大運動会

元北木小学校での海社の取組（バス、宿泊研修、高齢者住宅）

北木小学校は、平成13年に島内の小学校を1ヶ所に統合することに伴い閉校となりました。閉校後、校舎は、職員室が公民館、保健室が笠岡市の委託を受けた総合病院の診療所、教室等が海社の事務所といった、複数団体が同居して利用するようになりました。ここで、島にはバスもタクシーもなく、交通手段を持たない高齢者が診療所へ



北木島診療所



元北木小学校



また、海社は、校舎の教室等を利用し宿泊研修所を運営し、小中学生から社会人まで幅広く野外活動や宿泊研修等を受入れています。宿泊研修所は、研究室や講堂だけでなく、シャワー、厨房、食堂、



神戸と島の生徒が共に踊る

たが、今では、海社が診療所までの移動手段確保を主目的に、笠岡市の補助を受けて島内で定時定路線のコミュニティバスの運行をしています。バスは、診療所が開く月・水・金の週3日、1日3往復の運行です。



コミュニティバス

の移動に困るといふ問題が生じました。当初は、市役所の職員が公用車で送迎していましたし

宿泊室の設備、寝具等も完備しています。利用は岡山県内からの利用が多いのですが、遠くでは、神戸の中学校の野外活動を毎年受け入れています。野外授業や活動等に、神戸の中学校だけでなく地元の水中学校の生徒も一緒に参加し、中学生同士の交流が活発が行われ、北木中学校の卒業式には、毎年記念樹が贈呈される仲まになっていきます。

さらに、高齢者が入居する施設がなかった笠岡諸島の課題解決のため、平成27年9月から元校舎の一部区画で高齢者共同住宅の運営もスタートしました。対象は笠岡諸島の高齢者で、要介護には至らず共同生活ができる方となっています。

海社の事業と「志」

このように、海社は、元北木小学校を重要な設備かつ拠点と位置付けて活動を行っています。海社の行っている事業はこれだけではありません。廃校利用とは直接関係がありませんが、高齢者向けデイサービス、高齢者の買物支援&見守り、保育所の運営、移住者に対する空き家の仲介、映画ロケ地の誘致、地元の魚を使った特産品の開発販売等の事業を行い、常勤14人、非常勤32人の職員（役員を含まない）を雇用しています。

なぜここまでやったのか、それは、北木島が石材業の島であったことに秘密がある

るのである。島には個人経営の石屋さんがたくさんあります。個人経営であるため、計画、資金手当、営業活動、課題解決等、否応なく自ら事業を切盛りする習慣が身についています。



元幼稚園を利用した海社事務所

海社の前身「島をゲンキにする会」を創った人たち、今の海社の役員も石屋さんがたくさんいます。身についた「自分のことは自分で考え行動する」という行動原理、別の言葉で「志」と言ったらいいのか、それが大きな原動力となっていると思います。

これからの海社

これからも、海社では笠岡諸島の人々の困りごとを解決するため、「いつまでも島で元気に暮らし続けるために」事業を進めていきます。各島のニーズを感じ、生活する上で何が必要かを考えながら、事業に取り組んでいきたいと思っています。